

TTC 提案山行実施記録表

2013年6月24日 報告者:関喜義

山行名	鹿沼 岩山(328m)		栃木県	
実施日	2013年6月22日(土) 日帰り		ハイエース利用	
天候/参加人員	天候:晴、曇りのち雨・雷(全般的に前線の影響により不安定) レベル:★★ 参加者:申込13名/実施13名(男8名/女5名)			
スタッフ	CL/計画: SL: 会計: 救護: 写真:		スタッフ名削除	
参加者	氏名削除			
費用 1人当り¥4,300 カンパ金 ¥1,220	集金: ¥55,900 (@4,300×13人) 支出: ¥54,680 以降内訳: ハイエース使用料¥16,380、ドライバ謝礼¥19,000(早朝+¥1,000)、燃料代¥10,400(@130×(350+50)/5)、高速料金¥8,900 収支差額: ¥1,220=カンパ金			
計画と実行タイム(歩行/休憩/行動時間)				
時間区分	歩行	休憩(うち安全確保待機延べ時間)	行動	
ガトブツ	なし	なし	なし	
計画	2:40	3:30(2:30)	6:10	
実行	3:15	2:20(1:05)	5:35	
実行コースタイム記録				
本厚木ヨーカドー前==厚木IC==東名港北P==東北道都賀西方P==鹿沼IC==R121・R14==日吉神社・・・ 6:00 6:25-6:35 8:30-8:45 8:55 9:20-9:35 ・・3番岩・・・2のタルミ(鞍部)・・・2番岩・・・岩山(1番岩+ひさし岩)・・・猿山(鎖場)・・・岩山(1番岩)・・・1のタルミ(鞍部)・・・ 10:05-10:10 11:00-11:35 13:00-13:40 13:50-14:00 14:15 エスケープルート・・・ゴルフ場脇==まち駅・新鹿沼宿==R14・R121==鹿沼IC==東北道蓮田SA==本厚木 15:10-15:30 16:00-16:40 17:55-18:10 20:00				
コースの概要、特記事項、反省事項等				
<p>今回のコースは完全に里山だ。里山という言葉は近年山岳部出身の学者がその普及に努め、古くは「村里家居近き山をさして里山と申し候」と尾張藩の書物「木曾御材木方」で定義している。この里山にしては珍しい山名、しかも距離と高低差のない、それでいて長い鎖場がある。総合して難しいコースではないが危険度合いが高い。数日前から梅雨前線に台風のおまげが付く絶望的な予報だったが、2日前から台風も熱帯低気圧に変わり、その低気圧も偏西風に乗って勢いよく東方へ飛ばされた。前線もかなり南下し明るさが出てきた。決行だ。</p> <p>予定よりも早く日吉神社に着き、その横から登り始めた。まわりが住宅街なのでいつもの里山を歩くような錯覚に陥ってしまう。これが散歩道ではないことに納得させられたのは歩いて10分ほどだった。それは景色が急すぎるほど一変し、目の前に高さ20mほどの岩場が突然現われたからだ。B峰とC峰に挟まれた急登だ。見上げたものだった。2つの岩峰には一目で中高年とわかるクライマーが数パーティー取り付いていた。元気この上なく、こちらもうれしくなる。さて、この先は目的地まで岩稜線ではあるが樹木があり高度感を和らげてくれるはず、であったがポツリポツリと降ってきて高度感以前の状況になってきた。一帯は凝灰岩のために雨で非常に滑りやすく、足の緊張は最後までほぐれることはなかった。</p> <p>本日のハイライトとなる鎖場を前にして躊躇せず引き返すことにした。雨はやんだものの濡れていた。70mの鎖場は上から見る限りツルツルの一枚岩で10m先しか見えず、その先は絶壁で、ふもとの木々の頂点が確認できるほどだった。計画では1のタルミ付近で西側にエスケープルートを設定したが、現地判断(案内板により)で東側を下ることにしたが急坂だった。しかも落ち葉の下が粘土質の土で、スキーのボーゲン状態で多くのメンバーが「泥んこ坂(勝手に命名)」の洗礼をお尻に浴びてしまった。この100mばかりの難所を過ぎると帰りははやい。降りてみればゴルフ場のグリーンのすぐ横に出てしまった。入山も突然であったが、下山もドライエモンのポケットから飛び出るようにアツという間だった。振り返れば、この岩山は小悪魔のような性格ではあるがヤマヤを満足させるのに十分な里山だった。さらにアプローチ面でも感謝したい山だ。</p>				
▼ 特記事項				
長い鎖場の替わりを泥んこ坂で行えばよかった。ローダウン(最後4人経験)または懸垂下降の練習の機会を逃してしまい、折角皆さんがカラビナとロープを準備されたのに申し訳ありませんでした。				